福島県教育新聞

発行人
発行所　福島県教職員組合
福島市上浜町10－38　電話024－522－6141
〔定価一部　20円〕
編集・責任者　瀬戸禎子
e-mail：ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
（この購読料は組合費に含まれています。）

ろうきんのキャッシュカードなら
ATMお引き出し手数料が
実質０円
ご利用手数料はいったんご負担いただく場合がありますが、即時キャッシュバックいたします。
東北労働金庫

厳しい現状を私たちの声で！

12月25日（月）、県庁西庁舎教育委員会室において専門部交渉が行われ、県内各地の仲間が集まりました。

青　年　部

- 初任者研修の負担軽減を要望。メンター制度は初任者だけでなく教務や教頭にも負担。また、学校事務職員初任者の研修機会の充実を要求。
- 「採用後20年以内の３管内３地区」など異動基準の見直しを要望。この基準があることで他県受験に回ってしまう現状も伝えた。
- 部活動に関して現場の負担感を伝え、生徒数に応じた設置部活動数の制限、部活動指導員の配置など負担軽減の具体策を要求。

栄養教職員部

- 他県では、新卒の栄養教諭の採用がある。今後、研究・検討を進めてほしい。
- 栄養教職員の配置の改善。再任用短時間勤務者の効果的配置について要望。
- 食育に関わる栄養教諭、栄養職員の多忙化の現状。
- 老朽化した給食施設や、古い機械・機材等を衛生管理基準にあうよう早急に改善するよう求めた。

障がい児教育部

- 複数学年が在籍している自閉症・情緒障がい学級への非常勤講師の配置を要求。
- 支援学級担当者が、休暇取得や希望する研修への参加をしやすい校内体制を整えるよう、管理職に指導することを要求。
- 本人・保護者の希望に沿って通級指導教室を設置することと、送迎等で地域間格差が出ないよう要求。

女性部・養護教員部

- 出生サポート休暇（不妊治療休暇）を治療内容にかかわらず10日に拡大することを要求。
- 教諭経験２年（他県も可）があれば、「特別選考」で採用試験を受験できることを確認。一度退職した人も現場に戻ることができる。
- 養護教員の定年前再任用短時間勤務制導入にあたって、配置の工夫を。複数配置のところや初任者への支援で配置できないか要求。
- 人員不足の実態とその解消を強く訴えた。

事務職員部

- 県の行政職と学校事務職員の賃金格差について改善を要求。
- 学校事務の処遇改善と共同連携の課題から１グループの設定方法について、市町村をまたがないような編成を要求。
- 事務職員の全校配置、複数配置基準の弾力的な運用の要求。
- 新採用事務職員に対する職能研修のさらなる充実を要求。
- 履歴書等の電算化による業務削減・効率化と指定研修旅費の調べの様式を改善要求。

新春座談会

テーマ「女性参画の実現のために～ジェンダー平等教育の必要性を改めて認識～」

女性部（宍戸郡山支部女性部長、髙萩中核市いわき担当中執）★菊池副委員長

今年は辰年、昇り龍のごとく、女性活躍を進める年にしたいと思い、座談会を行いました。
コーディネーターは菊池副委員長が務めました。

組合加入や女性部活動に関わったきっかけは？

（宍戸）　30歳くらいで加入。尊敬する恩師が組合員だったことがきっかけ。ずっと組合費を払うだけだったが、数年前に郡山支部女性部常任委員となり、集まって話すことの大切さを知った。

宍戸明子さん

（髙萩）　母が看護師で、積極的に組合活動に関わっていた。自分も組合に入ろうと思っていた。いわきで書記長にオルグされ加入へ。青年部総会に参加したのがきっかけで役員を引き受けてしまった（笑）。学校での悩みを話せたことで、視野が広がり、世界が開けた。

（菊池）　初任早々に、結婚・妊娠を経験したが、組合員の心ない言葉から、組合はマイナスイメージだった。しかし別の先輩が「組合加入は、まだいいのでは。」と言っていながらも楽しそうに活動しているのを見て、加入した。

女性参画が進まない理由は？

（宍戸）　今まで一緒に働いた女性管理職は、シングルや夫と死別した人で家庭に束縛がない人だった。

髙萩志津子さん

（髙萩）　自分が知っている女性管理職は、子育てしている人だった。夫が協力的な人もいる。

（菊池）　子育てしている人は、なかなか女性管理職にならない。以前、同僚だった女性管理職から「男性並みに働きたいから管理職になった。」と言われた。働き方に男女差があるのか。

（宍戸）　以前、医学部入試で女性受験生を不利に扱う問題があった。実際、コミュニケーション能力の高い女性受験生の方が面接やグループディスカッションでは得点が高い。もちろん、男性にもコミュニケーション能力が高く気配りができる人もいるが…。男だから女だからではなく、その人の良さを認められるように子どもたちにも伝えていきたい。

（菊池）　コミュニケーション能力が高く周囲への気配りができることは、組織で大切。そうした能力が高くても、女性はなぜ参画できないのか。

（宍戸）　私の学級でリーダーシップを取る女子は、グループ学習等でも誰にでも優しく接している。なぜ社会に出ると女性が前に出られなくなるのか。社会全体に影響力がある世代には、まだまだ性別についての固定概念を持っている人がいる。世代交代していく中で、男女の差がなくジェンダーフリーの考え方が浸透していくと良い。

（髙萩）　私の学校でも女子が活躍する場面が多い。自分より下の世代は、バブルがはじけて男性だけでは経済が回らなくなり、女性が頼りにされるようになった。しかし、処遇や賃金で男性が優位なのは変わらない。

女性参画に必要なのは、人権教育では？

（菊池）「職業選択の男女差」の授業を授業参観で行ったとき、子どもの母親から「自分たちが子どもの時にこのような授業を受けたら、考え方がかわったのに。」という感想があった。教育の力は大きい。

菊池ゆかりさん

（宍戸）　私も５年生で職業選択の男女差についてのジェンダー平等教育の実践を行った。最終的には、どの職業も男女の違いは無いという結論を子どもたちが出した。高学年だけでなく中学年でも実践できると感じた。

（髙萩）　学校教育で足りないのが、労働者の権利に関する教育や人権教育。そしてジェンダー平等教育だと感じる。学校の中でこそ、男女の差がない社会が理想だと伝えていきたい。

（菊池）　文科省主導だが、教育課程編成の中で人権教育を充実させる動きが出てきた。これは大きなチャンスだと感じる。労働者の権利やジェンダー平等教育も教育課程に位置づけている学校がある。教育新聞でも実践を掲載してほしい。

学校の多忙化に拍車をかける「福島県総合教育計画」

「朝食調べ」

教育課程編成検討推進委員会からの提言⑤

朝食を食べる児童生徒の割合

現況値96.1%（令和４年度） ➡ **目標値100%（令和12年度）**

現代社会において、子どもは様々な環境で育っている。
（ひとり親、複数の仕事を掛け持ちで生計を立てる親、
夜間の勤務で生計を立てる親……）

朝食を食べたいのに、食べてこられない子どももいるはずである。

そんな状況の中で、朝食摂取率の目標値を100%とするのはおかしいのではないでしょうか。また、この調査は朝食摂取率に加え、「誰と食事をしたか。（ひとりで食べたか。）」「野菜は食べたか。」「汁物は食べたか。」などの調査も合わせて行われています。これは、明らかに家庭への過度な介入であり、プライバシーの侵害です。各家庭の状況を差別するような調査といっても過言ではありません。ある学校では、朝食を食べたくても、食べられない子どもが負い目を感じ、調査中に泣き出してしまったという実態もあります。

学校現場では100%を達成させるために、「家庭との連携を図りながら…」という学校お得意の枕言葉を使い、各家庭への指導の強要が求められます。担任や養護教諭、給食担当者等の負担が増大し、多忙化に益々拍車がかかっていきます。

行政　朝食を食べてこられない3.9%の原因が何かを分析 ➡ **対策を講じる**　**役割**

学校　保健体育や家庭科等の食育の授業 ➡ **栄養素の摂取や食事の大切さ**

「朝食を食べたか」の把握は家庭への過度な介入！

「人権」の立場から見てもNG！

「朝食調べ」のような、行政からおりてくる様々な施策を当たり前と捉えるのではなく、「おかしい」「何で？」と批判的な視点をもってみていくことが、わたしたちにとっては大切なのです。

ここは学校です！ Monster 松

知って安心 私たちの権利

2024年４月から手当や休暇が拡充されます！

長年の組合運動の成果が結実しました!!昨年の秋季確定交渉によって、以下の手当と休暇が拡充されることが決まりました。「子育て休暇」については、詳細の確認中です。わかり次第、教育新聞等でお知らせいたしますので、ご確認ください。

⑴ 「通勤手当」はガソリン代高騰を受け、距離に応じて「100～2,700円の引上げ」。
⑵ 「子育て休暇」は、対象範囲を２親等以内の家族の看護まで拡大。孫の看護でも取得可能に。お子さんがいない方でも、父母や祖父母の看護として休暇を取得することが可能。
⑶ 「夏季休暇」の取得期間が６月１日～10月31日までに拡大。
⑷ 会計年度任用職員の処遇改善が実現!!給与の増額改訂の適用時期を４月とし遡及して差額を支給（フルタイム職員は昨年末支給、パートタイム職員は年度内支給）。さらに、2024年度から、勤勉手当が支給されることになりました。

みんなのひろば

この３年、コロナ禍で、外で飲む機会が少なくなった分、家でちょっと贅沢をするようになりました。いろいろなビールを買って、〈おうちビア博〉の開催です。（〈ビア博〉はいわきの楽しいイベント名）

某スーパーや酒屋さんでも、結構な種類が売られています。普通の缶ビールよりは高めですが、外で生ビールを飲むよりは安い、と自分に言い聞かせています。

※上の写真は某コンビニで売られているお気に入りのビール。

そんなことをしている間に、クラフトビールが気になり過ぎて、旅行先でもクラフトビールのお店に入ってしまうようになりました。

※下の写真はそのお店の看板。お店の奥で、ビールをつくっているそうです。

（相馬支部　Ｋさん）

ノスタルジー

～今回のテーマは「大切にしたいこと∨」～

二十年以上前の話である。今は亡き義父が我が家に来るというので郡山駅まで迎えに行った。改札口に現れた義父の姿は、昭和の記録フィルムでみた戦後の買い出しから戻った人のようだった。パンパンにふくれたリュックを背負い、両手にいくつもの風呂敷包みを抱えていた。ぼくは正直少し恥ずかしかった。しかし義父は堂々と力強く歩いて行く。重いから持ちましょうと言っても、大丈夫と言う。我が家でその荷物をひもとくと、自宅の畑で収穫した野菜やお菓子など、あのパンパンの荷物の中身のほとんどが娘夫婦や孫のためのものであった。自分のものなどはほんの少し。義父は子や孫のために自分の持てる限りを抱え、我が家にやって来たのだった。

最近母の介護のために実家に通うようになった。改めて家の中を見回すと何と物の多いことか。でもよく見ると、切りそろえた牛乳パックがひもできちんと束ねられていたり、何度も繰り返し使ったであろうビニール袋が干されていたり、調味料入れは何かの空き瓶だったりしていた。それに、ティッシュペーパーやゴミ袋などなどたくさんの物が買い置きされている。介護を通して普段は気づかないことが見えてきた。母はこうやって暮らしてきたのだと胸が熱くなった。

義父も母も戦争経験者である。物がない、ひもじい経験をしている。だからこそ、子や孫にはたくさん食べさせる。物がない不自由さを感じさせたくない。そんな思いが強いのだ。見栄えや効率化に代表される現代に逆行するかもしれないが、「そんなの手間かけるより新しいの買った方が早いじゃん」ではない生き方を貫いてきた義父や母たちがカッコよく見えてきてしまうのはなぜだろう。

主義主張は違うけど田中角栄の警句「戦争を知っている世代が政治の中枢にいるうちは心配ない。平和について議論する必要もない。だが戦争を知らない世代が政治の中枢になった時はとても危ない」がその通りになってきた。

ぼくは懐古主義を主張しているのではない。過去から学び、これからをみんなで生きていく上で、本当に大切なことは何なのか考えていきたい。

今言えることは、あの時、義父を恥ずかしいと思った自分の方が恥ずかしい、と思えることだ。

（K・I）